ゆめクラブ大和

対話と笑顔で
明日を開こう

第84号

■ 令和６年１月25日発行 ■

発行：大和市シニアクラブ連合会
〒242−0004 大和市鶴間1丁目25番15号
（大和市役所第2分庁舎内）
☎046（260）5654（代）

編集・印刷　㈱博報社関東本社
神奈川県厚木市愛甲1−8−39
☎046（280）6001（代）

創立60周年記念号

私たちはゆめクラブ大和の活動を応援しています

新年のごあいさつ

大和市シニアクラブ連合会　会長　菊池　信良

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては健やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年令和5年は「ゆめクラブ大和」は創立60周年を迎えました。60年間、半世紀以上にわたり活動を続けてこられましたのも会員各位のご尽力と関係者各位のご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

昨年の5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行されましたが、まだまだ以前の状態には戻っておりません。そのような中でゆめクラブ大和も活動しております。

グラウンドゴルフ大会、春の日帰り親睦旅行、趣味の作品展、友愛チーム研修会、スポーツ大会、秋の一泊旅行、ウォーキング大会、ジャズコンサート、趣味の講座等々の活動を行いました。

特に今回始めてシリウスで開催した趣味の作品展には会員の皆様だけでなく一般の市民の皆様方にもご覧いただき5日間で延べ、840人の方にお越しいただきました。本当にありがとうございました。

今、世界ではロシアとウクライナ、イスラエルとパレスチナの間で戦争がおこっております。何の罪もない一般市民、そしてこれからの世界を担っていく若い世代、幼い子どもたちがたくさん犠牲になっています。テレビ、新聞等の報道で毎日のように目にする残虐な場面、一刻もはやく戦争が終わることを願うばかりです。

それに比べれば日本は平和な国です。その平和な国にも、生活をしていく中で社会情勢は厳しくなってきております。特に物価高は私ども高齢者、年金生活者にとっては重い負担となってきています。

そんな中ではございますが、私どもは毎日を明るく元気にすごしていきたいと思います。健康第一、家の中に閉じこもっていないで、外に出て太陽の光を浴びきれいな花や周りの景色を肌で感じ、お友達と一緒に楽しく過ごすことによって生きることの喜びを感じると思います。また、シニアクラブも新しい仲間が増えていくことを望んでおります。

新しい年、令和6年も「明るく、楽しく、元気よく」をモットーとして皆様と一緒に楽しい年になりますよう頑張ってまいりましょう。

新年のごあいさつ

大和市長　古谷田　力

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、健やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。旧年中は、市政への多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私が皆様からの信託を受け、市政運営の重責を担わせていただいてから、早くも8か月が経ちました。この間、子どもから高齢の方まで、すべての人が楽しく、笑顔あふれ、心と体に加えて、社会的にも幸せな状態、いわゆるウェルビーイングが実感できる大和市を目指し、新たなまちづくりを一歩一歩着実に進めてまいりました。

そのような中、全国はもとより本市においても、高齢の方の人口は年々増加しており、これまで以上に支援を必要とする方が増えております。その一方で、15歳から64歳までの人口は減少していくと見込まれ、より一層、高齢化社会が進むと考えています。

そこで、本市では、このような時代を迎えても、誰もが住み慣れた地域で自分らしくいきいきと充実した毎日を送ることができるよう、様々な事業に取り組んでおります。

一例として、地域における生活上の課題を住民同士等の支え合いで解決することについて話し合う「協議体」の設置を各地区で進めております。直近では、「上草柳ふれあい協議会」が新たに設置され、昨年8月に相談窓口がオープンしました。

このような地域における繋がりを広げるためには、長年にわたる「趣味活動」や「友愛活動」等を通じて、地域の活性化に貢献されてきた単位クラブ、そして貴団体のご支援・ご協力が不可欠のものと考えております。

本市といたしましては、今後も地域における皆様の活動を支援できるような福祉施策の充実を図ってまいりますので、引き続き、本市の福祉行政並びに市政へのご理解とご協力を賜りますことをお願い申し上げます。

結びになりますが、ゆめクラブ大和の益々のご発展と、新しい年が素晴らしい一年になりますよう会員皆様方のご健康とご多幸を心から祈念いたしまして、年頭のあいさつとさせていただきます。

私たちはゆめクラブ大和の活動を応援しています

創立60周年にあたって

大和市シニアクラブ連合会
前会長　高瀬　英一
（柳和会）

ゆめクラブ大和創立60周年誠におめでとうございます。私自身は、65歳で入会（柳和会）しましたので15年強ですから1/4ほどの歴史しかありませんが私が入会してまず感じたのは、老人会（当時）の会員さんの元気で、明るいことにびっくりしたのを覚えています。

その後感じたのは、クラブの活動が比較的室内の行事が多かったため、明るさ、元気さが外部の人に伝わっていなかったと感じました。そんな教訓からできるだけ屋外の活動を増やそうと思いグラウンドゴルフ同好会を立ち上げたり、バス旅行もグラウンドゴルフができる宿泊先を選んだりして会員さんにも喜んでいただいています。私の所属クラブもご多分に漏れず会員の減少に苦労していますが、屋外の活動を見学して入会して頂いて何とか会員減少に歯止めをかけています。

15年の半分は、本部の仕事をさせて頂きましたが一番の仕事は「ゆめクラブ大和」の名称変更（老人クラブ→シニアクラブ）だと思っています。当時全国的にも、「老人」という言葉が老人クラブの会員減少（最盛期の2/3に減少）の原因だと新聞にも掲載されていましたし、私自身もそう思っていましたので、役員の方々、女性リーダーの方も賛成と後押し頂いて常任理事会に提案し各ブロック会で討論して頂いたところ、以外にも「老人」で良いという意見も結構有りますという報告があり既に入会された方は「老人」という言葉に抵抗がなくなっているのだなあと感じましたが、会員募集には適当ではないという事で変更することで議決しました。県老連にも名称変更を報告したところ事務局長も『変更したい』と言っておられましたがそのままですし、全国的には今だ「老人クラブ」の名称が圧倒的に多いのが現状です。

50数年も使ってきた名称ですから私自身も複雑な心境を感じたことを覚えています。連合の会長として取り組んだことは、意識改革と、組織改革です。意識改革は、シニアクラブ連合会は、我々の組織であるという認識を持って活動に参加して頂きたいということです。

組織改革の一つは、ブロック活動の充実です。ブロック内の各クラブの状況を把握してブロック内で解決する努力をして頂きたいということです。私自身も、現場に出向いてお話合いに参加しようと考えましたが、コロナの発症で出来ず残念に思っています。しかしながらブロック長さんには困難の中、積極的に活動して頂いたことに心から感謝しています。

『ゆめクラブ大和は永遠です』健康都市大和の一翼を担う大きな団体として問題を解決しながら益々発展するよう全会員参加で頑張りましょう。

私も、微力ながら一会員として活動したいと思います。

私たちはゆめクラブ大和の活動を応援しています

「昭和38年の出来事」

中央林間第三寿楽会　岡松　弘純

思い出しながら口ずさんでみてください。

・**こんにちは赤ちゃん**（「こんにちは赤ちゃん　あなたの笑顔…」　梓みちよ）
・**見上げてごらん夜の星を**（「見上げてごらん夜の星を小さな星の小さな光が…」　坂本九）
・**高校三年生**（「赤い夕日が校舎をそめて　ニレの木陰に弾む声…」　舟木一夫）
・**美しい十代**（「白い野ばらを捧げる僕に　君の瞳があかるく笑う…」　三田明）

これらの歌は、昭和38年に流行しました。

・**史上最大の作戦**（ジョン・ウェイン、ロバート・ミッチャム、ヘンリー・フォンダ…）
・**アラビアのロレンス**（ピーター・オトゥール、オマー・シャリフ、アレック・ギネス…）
・**大脱走**（スティーブ・マックイーン、チャールズ・ブロンソン、ジェームズ・コバーン…）
・**クレオパトラ**（エリザベス・テイラー、リチャード・バートン、レックス・ハリソン…）

これらは昭和38年にヒットした洋画です。

今年のNHK大河ドラマは「どうする家康」ですが、山岡荘八著「徳川家康」がベストセラーになったのは昭和38年です。

伊藤博文が聖徳太子にとって代わりました。これは千円札の肖像の話です。

山手線の車両がウグイス色になりました。

電気蚊取り器「ベープ」、エースコックのワンタンメン、日清焼きそばが発売されたのは昭和38年です。

今でもよく食べられるササニシキは、この年に開発されました。

いかがでしょう、今から60年前「昭和38年」のことが、少しはよみがえったでしょうか。

この年、大和市老人クラブ連合会（当時）が、11クラブ600名で発足したそうです。それから60年、人で言えば「還暦」を迎えたことになります。昔の「還暦」は長寿の印、人生の大きな目標だったようです。しかし現在では、「60、70洟垂れ小僧」と言われるかどうか分かりませんが、「還暦」で長寿とは言われづらいでしょう。連合会も「還暦」を迎えたとはいえ、ますます壮ん、ますます元気に、更にさらに発展していってもらいたいものです。

「シニアクラブ連合会」60周年を迎えて

宮久保クラブ　会長　橘　　健次

シニアクラブ連合会（旧老人クラブ連合会）60周年記念、誠におめでとうございます。

各人が、現在に至る活動の一端を振り返る重要な節目であり、今一歩将来に向かっての活力を充填する大事な節目であると思います。

変動の激しいこの世の中にあって、過去を見つめ現状を思い、将来に対して今何が必要なのか、活動の目標を見据えて、地域の為、そして自分自身の為に何が出来るのかを決める大事な60周年と思います。

お互いに自身の健康第一を「常に頭に於いて」自分の出来る範囲を見極めて進んでゆき、楽しい思い出を作ってゆきましょう。

結びに、種々の活動の中心となる「シニアクラブ連合会事務局」の絶える間がない活動に感謝し、60周年記念の挨拶とします。

私たちはゆめクラブ大和の活動を応援しています

第二喜楽会設立60周年記念寄稿

第二喜楽会　会長　伴　　勝義

第二喜楽会は昭和38年4月1日、山王原、山王原上、長堀の3自治会で構成された老人会で初代会長に瀬沼九平氏が就任され山王原自治会館を拠点としていました。その前年に宿喜楽会が設立されていたため第二喜楽会と命名し今日に至っています。平成18年4月1日付で3地区での会員が増えたため話し合いの結果、山王原上は山王原上喜楽会と命名、長堀は長和会と命名したが山王原は第二喜楽会としそのまま変更せず、それぞれ会長を選出しスタート、ゆめクラブ大和の第1ブロックで楽しく友愛活動を含めて楽しんでいます。第二喜楽会は現在会員76名で他のクラブと変わりなく役員会、誕生会、公園の清掃と花の管理や低学年下校時の見守り、趣味の会、歩け歩け運動のほか自治会やゆめクラブ大和のイベントに参加して楽しんでいます。

60年前先人が老人会を立ち上げた頃は3地区で会員は30名位で、その後徐々に増え70名近くになり、会館も狭くて時代の流れもあり3クラブに分かれたが、分かれた時は会員も少なくなり、当時の老人会から会員を勧誘して欲しいと当時自治会長だった私の所へ依頼があり、副会長と2人で自治会員の家を訪ねて60歳以上で年会費1200円の条件でお願いしたら35名ほど、私と副会長を含め入会して頂き老人会に喜ばれました。それから12年して先代の会長と副会長に呼ばれ体力の限界で会長を辞めるが次期会長が見つからない、そこで貴方に会長をお願いしたい、受けて貰わないと喜楽会を解散せざるを得ないと言われ、自分でお願いした会員も多く止む無く13代会長を引き受け5年が過ぎました。大和に老人会が出来たのと同じ第二喜楽会も60年を迎え会員の皆様に助けてもらい口コミで会員も微増し感謝、感謝です。

卒寿を生きる

草柳寿草会　中村　　勝

転勤、転勤で妻や子ども達には大変な思いをさせたが、いつも良い出会いがあった。その先々の人々には数えきれない程の温もりを受け、今もその絆はつながっている。

50年に近いサラリーマン生活に終止符をうち、退職と同時に自治会副会長に押され、地域の人達とふれ合い、新しい一歩が始まる。時を待たず、多くの人達から寿草会への入会を誘われたことがきっかけで、市の老人クラブ連合会の友愛活動に係わるようになる。

寿草会会長を引き継いでからは、月一回の集まりである「草柳サロン」を立ち上げて、飲食を共にしながら、カラオケや、おしゃべりが中心の楽しい時間となった。包括支援センターからは、毎回参加の上、地域の大事な情報が提供された。草柳サロンも充実し、県老連友愛活動40周年で表彰を受けた。

市老連の推薦で寿草会友愛チームとして、NHKテレビに出演し、健康都市大和を全国ネットでアピールできたことは、大変嬉しく今迄活動してきた実績として残すことができた。

施設訪問チーム「草柳会友愛」を立ち上げ、介護予防サポーターの受講者10名でスタートし、口腔体操、脳トレ、カラオケ等で施設の方々と一緒に楽しんだ。現在はコロナの影響で休止している。

若くて行動力があり、信頼の厚い「高橋正弘」さんに、草柳友愛リーダーのバトンを渡すことができた。

この度市シニア連より特別表彰を受けましたのも、私を支えて下さいました皆様のおかげと感謝し、これらの体験は、私の人生に彩りを添えた大切な宝物です。卒寿の峠を越え、歩こう会、グラウンドゴルフ、オカリナ等。残された日々を一歩、いっぽ楽しみながら、ありのままに生きていきたい。

私たちはゆめクラブ大和の活動を応援しています

ゆめクラブ大和年表

平成25(2013)年～令和5(2023)年

年/クラブ・会員数	ゆめクラブ大和の動き(特記事項)	高齢者福祉と社会の主な出来事
平成25(2013)年 87クラブ 5,112人 友愛チーム28チーム	・大和市老人クラブ連合会(ゆめクラブ大和) 創立50周年記念式典、特別表彰、記念誌発行	
平成26(2014)年 85クラブ 4,937人 友愛チーム27チーム	・第9代会長に斉藤武志氏就任(きずなクラブ) ・加入促進委員会の設置(H30年まで) 中間報告まとめ(年1回) ・大和市民まつりへ参加(H29年まで)	・老人クラブ「100万人会員増強運動」 開始(5ヵ年計画:H26～30年度) ・4月 市「60歳代を高齢者と 言わない都市やまと」を宣言
平成27(2015)年 85クラブ 4,955人 友愛チーム25チーム	・加入促進委員会施策提案まとめる ・加入促進事業(活動資金づくり)として 年2回そうめん、うどん等の販売開始(継続) ・世代間交流事業「ふれあいコンサート」 (大和西高校)10回で終了	・1月 厚労省「新オレンジプラン」策定 ・3月 全老連「新地域支援事業に 向けての行動提案」を策定
平成28(2016)年 86クラブ 4,816人 友愛チーム22チーム	・常任理事会(拡大)開催 ・地域活動促進としてブロック会議等助成事業開始	・4月 熊本地震 ・9月 市「認知症1万人時代に 備えるまちやまと」を宣言
平成29(2017)年 88クラブ 4,683人 友愛チーム25チーム	・活動の見える化、ブロック活動活性化、 友愛チームの増加(22から25へ) ・「介護予防・日常生活支援総合事業」 全国各地域で始まり第一層、第二層協議体に参画 ・自治会連絡協議会役員との懇談会実施 (R元年まで)	・6月 厚労省「改正介護保険法」公布
平成30(2018)年 86クラブ 4,447人 友愛チーム26チーム	・第10代会長に高瀬英一氏就任(柳和会) ・自治会連絡協議会役員との懇談会 ・理事会、ブロック会・活動の見直し ・女性会長との意見交換会実施(R元年まで)	・4月 市「70歳代を高齢者と 言わない都市やまと」を宣言

私たちはゆめクラブ大和の活動を応援しています

年/クラブ・会員数	ゆめクラブ大和の動き（特記事項）	高齢者福祉と社会の主な出来事
平成31年 令和元（2019）年 82クラブ 4,157人 友愛チーム26チーム	・常任理事会の拡大化 ・ブロック活動の充実 ・スポーツ大会の見直し ・趣味の作品展会場をイコーザで開催 ・会の見える化、FMやまとに出演、 市や社協広報誌、タウン紙等PR掲載 ・「自治会交流フェスタ」に参加PR	・5月 令和がスタート ・厚労省「健康寿命延伸プラン」発表
令和2（2020）年 80クラブ 3,914人 友愛チーム25チーム	・会の名称を「大和市シニアクラブ連合会」と変更 ・4～6月全ての事業を中止 7～3月主な事業を中止 ・ゆめクラブ大和ウォーキング実施（継続） ・作品展は一般公開せず機関誌「ゆめクラブ大和」 とHPにて掲載	・新型コロナウイルスによる 1回目緊急事態宣言（4～5月）発出
令和3（2021）年 73クラブ 3,334人 友愛チーム30チーム	・新型コロナウイルス感染防止で 多くの事業を中止せざるを得なかった ・泊まり旅行を日帰りに変更し実施 ・加入促進事業（そうめん、うどん）に ハムの販売が加わる（継続） ・作品展示の会場をイコーザへ移し再開（継続） ・ジャズ&マンドリンコンサート実施（継続） ・ブロック会では可能な範囲で活動を再開 （グラウンドゴルフ大会）	・2回目緊急事態宣言（R3年1～2月） 発出 ・新型コロナウイルス、 ワクチン接種はじまる ・7月 東京オリンピック開催 ・8～9月 パラリンピック開催
令和4（2022）年 65クラブ 2,871人 友愛チーム35チーム	・11代会長に菊池信良氏就任（せぴあの会） ・ゆめクラブ大和グラウンドゴルフ大会再開 ・春・秋親睦旅行を日帰りで再開 ・好評のためジャズとマンドリンコンサートを 分けて実施 ・スポーツ教室で新規「歩行姿勢測定と ウォーキング講座」開催 ・ねんりんピック地域文化伝承館、 舞台と友愛ブースに協力	・2月 ロシア、ウクライナへ軍事侵攻
令和5（2023）年 64クラブ 2,725人 友愛チーム37チーム	・60周年記念事業 ①ゆめクラブ大和増ページで発行 ②趣味の作品展シリウス・ギャラリーで開催、 鉄道ジオラマを特別展示 ・春日帰り、秋親睦旅行1泊2日で再開 ・スポーツ大会屋内初でニュースポーツ4種目実施	・5月 新型コロナ2類から 5類感染症に移行

私たちはゆめクラブ大和の活動を応援しています

令和5年度 表彰関係一覧

神奈川県高齢者福祉関係功労者等表彰（知事）

◇**老人クラブ活動に対する貢献を行った市町村老人クラブ連合会役員**
・菊池　信良　会長（せぴあの会）

◇**老人クラブの活動が活発で他の老人クラブの模範となる単位老人クラブ**
・千本桜千寿会（会長　坂口　芳巳）

神奈川県老人クラブ連合会表彰（理事長）

◇**単位老人クラブ**
・深見中原福寿会（会長　沖本　繁行）
・花みずきの会（会長　大竹　芳秋）

◇**単位老人クラブ会長**
・松田　靖子　会長（光栄会）
・北島　明　会長（第二寿楽会）
・河村　育雄　会長（コトーえん友会）

◇**友愛チーム**
・柳和会友愛チーム（会長　髙橋　洋一）

神奈川県美化運動推進功労者表彰（知事）

◇**団体**
・せぴあの会（会長　菊池　信良）

神奈川県環境保全功労者表彰（県央地域県政総合センター所長）

◇**美化運動功労**
・島津あゆみの会（会長　荻窪　庸）

趣味の講座

毛糸を使ってクリスマスリース

令和5年11月9・15日　シリウス6階大会議室
参加者：9日 26名　15日 24名

もうすぐ12月、クリスマスも間近ですが、11月9日と15日の2日間にクリスマスリースづくりの講座が開かれました。参加者はそれぞれ26名と24名で（残念ながら男性の参加はありません）、会場はシリウス610会議室、三方ガラス張りの素敵なお部屋でした。講師は昨年に引き続きNHKテレビの「あさイチ」にも出演されている鴨下ふみえ先生、テーマは季節感と松ぼっくりや木の実などの自然素材を大切にした「毛糸を使ってクリスマスリース」です。

材料は一人ワンセットに用意されており2時間のなかで完成するよう配慮され、先生の楽しいお話を聞きながらのリースづくりのスタートです。

円形のリースを持ちながら、「12時と3時と9時を意識して～」「毛糸を巻いていきま～す」。次に2種類のデザインから、「どちらにするかは自分で決めてくださ～い」。

ここであちらこちらからざわざわと声がします。「飾りにはセンスがいりますね」の先生の声、参加者からは「あーあー、そうよねー」とちょっと諦め的な声…。すかさず先生「見本がありますから、最初は真似して大丈夫」と、参加者からは「見本みながらならできそ～、ワイヤーを切りすぎた～」の声も聞こえてきます。

先生は励ましたり褒めたり、参加者は完成にむかって「ちょっと自分らしく」を追求しながら頑張りました。

作品の講評では、「みなさんそれぞれにステキにできています。ぜひ家に飾ってください。雨があたらないなら軒下でもOK、毎年使えて分解して再利用もできます。気に入ってもらえたら嬉しいです」とあり、私たちも短時間に立派にセンス良く完成したリースを眺めながら、材料が同じでもこんなに表情が異なっていることに驚き、参加者一同、楽しい時間を共有できました。

（女性部員　熊谷　順子）

秋の一泊親睦旅行
10月30日～31日
どうした、家康　天下人への礎を築いた岡崎への旅
お土産は仲間との絆と海の幸

令和元年秋の親睦旅行以来、4年ぶりに宿泊親睦旅行を楽しみました。

冠雪した富士山の雄姿を車窓から仰ぎ見ながら一路岡崎に向かいました。

聖徳太子が建立したといわれる真福寺では、「竹の子」を中心とした「竹膳料理」フルコースのお膳を、すべて竹細工の器、箸で頂きました。

徳川家菩提寺の大樹寺では、松平・徳川歴代将軍全員の等身大の位牌を拝みました。家康が19歳の時、桶狭間合戦で敗れこの寺に逃れ自害すべく覚悟を住職に表したときの教えが、有名な「厭離穢土 欣求浄土(おんりえど ごんぐじょうど)」と知りました。家康が天下人への礎を築いたのが大樹寺であるということで、心して拝観しました。

どうする家康大河ドラマ館では、登場人物の紹介や相関図などドラマをより深く楽しめるヒントを学びました。

2日目は、三河湾漁港ならではの海産物のお土産を物色しました。また、島が天然記念物という竹島へ渡り、健脚の人は島の周りの崖っぷち遊歩道を一周しました。

2日間、すがすがしい秋晴れに恵まれ、参加したみなさんは単位クラブの垣根を越えて交流し合いました。

（事業部長　駒井壽明）

第46回ゆめクラブ大和スポーツ大会

日時　令和5年10月5日㈭
開会9時40分　閉会12時20分

会場　大和スポーツセンター体育会館　第1体育室

総合順位
第1位　第6ブロック
第2位　第4ブロック
第3位　第7ブロック

私たちはゆめクラブ大和の活動を応援しています

おたのしみ講座

ジャズコンサート

令和5年11月7日　シリウスサブホール　参加者180名

軽快な音楽に心もウキウキ！
プレーヤーと私たちが一体となって
若さと感動を分かち合いました

当日は、朝から足もとが不安定な天候にもかかわらず、ほぼ満席に近いみなさんにお出でいただきました。今年は、日本でジャズが演奏されて100周年になるそうです。それに合わせるかのように、NHKの朝ドラで「ブギウギ」が放映されています。主人公「笠置シヅ子」が戦後まもなくの頃唄った歌「ブギウギ」は、身体がリズムに乗って心がウキウキしてきますね。

今回の演目は、ジャズのスタンダードナンバーから映画音楽、ラテン音楽、それに、新しく歌謡曲が加わりました。さらに「女性ボーカル」の歌唱も加わり一層華やかなコンサートを楽しみました。「みんなで歌いましょう」のコーナーもあり舞台のプレーヤーに負けないくらい元気な声で唄いました。伝染するのはコロナやインフルエンザのウイルスだけではありません。元気エネルギーも伝染、いや伝播します。ビッグバンドと私たちとで元気エネルギーを伝播し合い、一体となって感動的な音楽空間を創り出し、若さと感動を分かち合いました。

（事業部長　駒井　壽明）

会員研修会

9月27日㈬シリウス1階サブホールにおいて令和5年度の会員研修会が行われました。

近年、高齢のひとり暮らしや、夫婦二人の世帯が増えています。このような世帯には、さまざまな犯罪やトラブルのリスクがつきまといます。そこで今回は、「高齢者の防犯対策」をテーマに大和警察署生活安全課 海老沢 喜幸氏、大和市役所生活あんしん課 中山 洋樹氏にお話を伺いました。

海老沢氏からは、具体的な事例をもとにユーモアあふれる話し方で詐欺や、訪問販売等に会わないため注意事項等をお話しいただきました。

・「自分は大丈夫」「うちにはお金がないから大丈夫」などと思っている人が被害に遭いやすい
・固定電話にかかってくる場合が多い
・インターホンが鳴ると来訪者を確認しないで、すぐに出てしまう人が多い

など自分にも思い当たることが多く、今後は注意したいと思いました。

中山氏からは、

・詐欺の多くは、はじめに固定電話にかかってくることが多く、固定電話の対応次第で被害を未然に防ぐことが出来ること
・電話がかかって来たら相手に録音するとのメッセージが流れる防犯電話はとても有効
・大和市では防犯電話に対し補助金（最大1万円）を出していること

などこれから高齢者が安全に生活していくためのお話をしていただきました。

私たち高齢者は、自分では昔と変わらないと思っていても体力だけでなく、判断力なども衰えてきてます。詐欺などの被害に遭わないためには、「慌てず、落ち着いて行動し、ゆっくり判断すること」を心がけ生活することがとても重要だと感じました。

（総務部長　石川　創一）

私たちはゆめクラブ大和の活動を応援しています

第1ブロック 第12回スポーツ交流会

ニュースポーツ「ヒットだ！ターゲット」実施

第1ブロックの伝統行事「スポーツ交流会」を、10月18日㈬、121名の参加者が下鶴間諏訪神社境内に参集して実施しました。

平成23年から先達の方々の努力で続けてきた行事で、コロナ禍で3年間中止を余儀なくされましたが昨年から再開しました。ブロックの仲間が手作りで運営し、「明るく 楽しく 元気よく」活動して、絆を一層深くすることができました。

ここで得た元気エネルギーを各単位クラブに持ち帰って自分たちの会を一層隆盛させることを誓い合いました。

ゲーム結果　第二喜楽会が2冠！

Aブロック

優　勝：第二喜楽会
準優勝：山谷双葉会
3　位：コトーえん友会

Bブロック

優　勝：第二喜楽会
準優勝：第一つきみ野会
3　位：第2つきみ野会

（第1ブロック　駒井　壽明）

大和総合ホール「感謝祭」に参加して

3ブロック（鶴間地区）女性リーダー会／「ひばりの会」世話人　熊谷　順子

去る8月26日㈯27日㈰の両日、大和総合ホール（西鶴間）で開催された「感謝祭」に、第3ブロック共同事業である作品展示と「ひばりの会」公開講座・コンサートで参加しました。「感謝祭」は、葬儀式場となっている㈱サンライフ大和総合ホールが社会貢献の一環で近隣居住者にむけ実施したもので、キッチンカーや特設ステージでの発表、マルシェ作品販売等催しがたくさんありました。

作品展示は、大和市シニアクラブ連合会で7月に実施した「作品展」に出品した5クラブの作品（30点プラス追加20点）を展示しました。また、3ブロックの花みずきの会のみんなの居場所「いろどり」の小物作品のバザーで賑わいをそえました。2日間地域のみなさんが立ち寄り（延べ214名）、鑑賞していただきました。以前の知り合いで最近遠のいていた人と出会えた人、知人ではないけれど顔と顔がつながった人、作品の作り方を尋ね盛り上がって新たな知り合いになった人など交流ができたようでした。

2つめは、3ブロックの事業で月1回実施している「ひばりの会」のボイストレーニング公開講座を第1部に、第2部では、ボイストレーニング講師の西口則子さん（ソプラノ歌手・市音楽家協会員）のコンサートのプログラムでした。

ひばりの会公開講座の第1部で、「花は咲く」（手話付き）を歌いましたが、練習では大きな声をだすと手が動かず、手を動かすと大きな声がでない、そこに笑顔で！となるとさらに難しく「認知予防には2つ以上の動作を行うことがとても大事」と毎回、西口先生に励まされており、必死で5年も継続して頑張っています。

第2部の先生のコンサートでは、すばらしい歌声で「夏は来ぬ」「浜辺の歌」「星に願いを」オペラ「ジャンニ・スキッキ」より私のお父さんなど5曲をうたいあげていただき私たちも清々しい気持ちで素晴らしかったです。

ここで「共同事業」にふれさせていただきます。3ブロック（鶴間地区）には9つの単位クラブがありますが、クラブ単独で取り組みにくい事業をブロックの共同事業として企画し行なっています。この度の感謝祭には、9つの単位クラブの存在を知っていただきたい、ひばりの会の活動も知ってほしいとの思いから参加しました。

今後も9単位クラブの仲間の参加とまだまだたくさんの地域の高齢者に声をかけ、ゆるやかに繋がっていけたらと思います。

私たちはゆめクラブ大和の活動を応援しています

2023 ゆめクラブ大和創立60周年記念 趣味の作品展

7月6日～10日　シリウスギャラリー

毎年恒例の作品展を初めてシリウスギャラリーにて開催することができました。作品数も238点、来場者数は830人と、過去最大規模となりました。作品を出してくださった皆さま、集めてくださった会長の皆さま、本当にありがとうございました。それでは少し、その様子をご紹介します。

さあ!いよいよです!

傑作ぞろいです!

ズラリ、作品が並びました!

日曜日限りでしたが、鉄道ジオラマも大にぎわいです。
新百合ヶ丘鉄道模型クラブの皆さまには、遠方の地より私どものゆめクラブ大和の行事に花を添えていただき本当にありがとうございました!

設営に携わった女性部の代表、掲示にご尽力いただいた男性の皆さま、ご来場のすべての皆さまに改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

女性部長　太田恵子

私たちはゆめクラブ大和の活動を応援しています

第1回ゆめクラブ大和友愛研修会報告

令和5年7月20日㈭午後1時30分から午後3時まで、文化創造拠点シリウスのサブホールにて、「令和5年度第1回ゆめクラブ大和友愛研修会」を開催いたしました。

研修会では、まず初めに大和市社会福祉協議会やまとボランティアセンター所長の濱島 明生様より「地区社協活動の推進と友愛チームへの期待」と題して講話をいただきました。濱島様からは地区社協の活動をご紹介いただき、市社協のひまわりサロンや地区社協のふれあいネットワーク事業と友愛チーム活動のさらなる充実が、「誰一人取り残さない」地域づくりの軸になるとエールを送ってくださいました。

続いて、ゆめクラブ大和友愛チーム連絡協議会会長の熊谷より、大和市の友愛チームの活動について説明をしました。

その後はグループごとに「困っていること」をテーマに、およそ40分にわたり活発なディスカッションを展開していただきました。ディスカッションで話された内容は、この報告の後半にまとめましたのでお読みください。

最後に、神奈川県老人クラブ連合会事務局の松田冴子様から、5年10年後には高齢者の独居が増え認知症患者も増える。逆に介護人材は減っていく時代の中で、あてにならない公助よりも自助が大切になる。一人ひとりが認知症にならないように、フレイル状態にならないようにと「集うこと」「話すこと」「会うこと」で認知症予防、フレイル予防をと呼びかけてくださいました。

＜ディスカッションで話された困っていること（抜粋）＞

◆会員が減少している　◆高齢なのに入会しない
◆声をかけても若い人は入らない　◆施設に入所する会員が増えた　◆デイサービスに行く会員が増えた
◆友愛チームのチーム員の後継者がいない 等々、高齢化や会員数減少に関する困りごとが目立ちました。しかし、一方で友愛チームのサロンやクラブ行事に、非会員の方もお誘いする努力をされているといったお話もありました。

◆サロンの内容がマンネリ化している　◆他団体の行事がありサロン参加者が減少した　◆サロンの場所がない　等々、サロン活動もいろいろな問題を抱えていることがわかりました。中には自治会が解散した影響で参加者が減ったというお話もありました。そのような中でもリズム体操や音楽会、落語鑑賞、麻雀などを取り入れ、サロンを楽しんでおられる様子もうかがうことができました。

◆訪問はたいへん　◆訪問した際に問題が起きた　◆いろんな人が訪問するのは訪問される側にとって迷惑ではないか等々、訪問の難しさが聞かれました。しかし、さまざまな行事に欠席された方のところへお菓子やお茶、ちょっとしたお土産などをお届けして喜ばれていることもお聞きしました。中には困っている方の手助けをしたい、地域に役立つ活動をしたいと前向きなご意見を述べた方もおられました。今後、高齢化が進むことを考えますと、友愛チームの訪問活動はますます重要になっていくと思われます。訪問の在り方など工夫が必要なのかもしれません。

今回の参加者の中に「何をしたら良いのかわからない」と話された方がいらっしゃいました。また「（いろいろな）情報が欲しい」「困っていることがたくさんある」といったご意見もありました。今後、連絡協議会として活動事例をはじめとする友愛チーム活動に役立つ情報の発信を心がけてまいります。

（ゆめクラブ大和友愛チーム連絡協議会
副会長・岡松弘純）

私たちはゆめクラブ大和の活動を応援しています

クラブ紹介

クラブの現況と課題について

中央四丁目豊友会　会長　叶　森統

プロフィール

中央四丁目豊友会は、大和駅西口プロムナード（大和歩行者専用道8号線）と県道40号線（横浜－厚木線）に挟まれた中央４丁目自治会およびコスモ大和自治会の両エリア内に居住する会員で構成されています。大和駅に隣接した地域として交通・商業に便が良い地域でもあります。

沿革

当クラブは昭和53年11月1日に中央四丁目自治会の会員58名を以って発足し、平成3年3月にコスモ大和自治会の老人会（16名）との協議により当クラブへ合併することとなり、現在に至っています。

また、平成10年4月1日に友愛チームを結成し、見守り訪問活動を開始しています。

現クラブ会長は、設立以来、13代目です。

この間、中央四丁目豊友会として地域の美化に成果をあげた功労で平成4年に県央行政センター所長から、平成8年には県知事からそれぞれ「美化功労賞」表彰を受賞。また、大和市の福祉の啓発・向上に功績があったとして平成14年に大和市福祉の日推進委員会から表彰されました。

クラブ表彰としては、平成19年に市老連からクラブ表彰（結成後5年以上経過）を、平成22年には県老連から単位クラブ表彰（設立5年以上経過）を受賞しました。

現況と課題

旧・市老連創立50周年記念誌に寄稿した平成24年4月1日時点での当クラブの会員状況は、会員数65人、平均年齢78.91歳で、会員を6班に分け、各班から1名の理事を選出し、会長、副会長（当時欠員）、会計1名、理事6名に相談役3名の計11名で会務を処理していましたが、10年を経過した市シニア連創立60周年の令和5年4月1日現在の会員状況は、会員数は53人（会費を免除している特別会員10名を含む）、平均年齢82.74歳で、会員数は12人減少、平均年齢は約4歳高くなっています（役員は、会長、副会長、会計各1名、理事5名の計8名）

大和市日常生活圏域高齢者等統計によれば、旧・市老連創立50周年の平成24年6月30日時点での中央4丁目の人口は2,076人、内60歳以上の人口は604人で高齢化率は29.1%でありましたが、60周年の令和5年9月30日現在の中央4丁目の人口は1,941人、内60歳以上の人口は776人で高齢化率は39.98%と、この10年間で高齢化率は10%以上も跳ね上がり、ご多分に漏れず当クラブも会員の高齢化が進む一方で新規会員の加入も思うに任せず、また役員のなり手も少ないなかで、クラブ存続のために全会員の叡智を出し合いたいと思います。

私たちはゆめクラブ大和の活動を応援しています

会員のひろば

会長が入院した

札の辻クラブ　三浦　良一

5月下旬、当クラブ会長が体調を崩し救急搬送されそのまま入院しました。

当クラブの会長は、リーダーシップに優れ、パソコンも使用でき、私たちはついていけば間違いないという状態でした。その会長が入院！「どうする〇〇」の心境でした。

すぐに臨時の拡大役員会を開き、当面の事業の役割分担を行いました。拡大役員会の開催（毎月）、子供会とのコラボ事業「七夕飾り」（7月）、上期の誕生会（8月）、新規事業のムービーサロン（8月）、第7ブロックグラウンドゴルフ大会の事務局（9月）、敬老祝紅白まんじゅうの配付（9月）と事業がめじろ押しで、これらの事業をほぼ会長一人に任せていたと猛省しました。

会長は、9月上旬に110日の入院生活を終え自宅に戻ることができました。幸いに頭と口は元のまま（入院前より冴えている？）ですので、9月の拡大役員会への出席、麻雀サークルとカラオケサークルは、リハビリを兼ねて参加するなど元気に過ごしています。

しかしクラブの運営が今のままではいけないと危機感を持ち「札の辻クラブ改革検討委員会」を立ち上げ協議を始めました。

スローガンは「誰が会長をやってもできそうなクラブをめざして～みんなでやればこわくない～」「パーフェクトをめざさない50点で良しとする」「SOS（手助け求む）はOK」としました。

具体的な改革案は、①募集チラシ作成等のパソコン作業を除き、各事業を「担当者制」とする。②毎月の拡大役員会の準備は「当番制」とし、当番が会場準備とお茶の用意をする。③市シ連主催の各種研修会等は役員が1回は行くようにする。としました。

課題は、会長とパソコン担当、担当者の「連携」をどう図るか、「情報の共有」をどうするか、サポーター（現在は元民生児童委員1人）を増やす手立てを考える等、やってみて改善する点が多くあると思いますが「会長の入院」を契機にクラブ運営を見直していきたいと考えています。

子供会とのコラボ事業「自治会館前に七夕飾り」（7月）

小人のワルツ

若草クラブ　和田サト子

早春の風が
猫柳（ねこやなぎ）の銀色にウインクをすると
甘い菜（な）の花の上に
春の小人がおりてくる
小人はラッパを吹きならし
花のワルツを踊る
やがて凍てついた大地は霜柱をたおし花のジュータンをひろげて行く
猫柳の銀色は
ラッパに合わせ首をふり
春の化粧に余念がない
富士塚峠のお花畑に
今日も小人のワルツがながれ
花のジュータンがひろがって行く

私たちはゆめクラブ大和の活動を応援しています

神奈川高齢者体育会（神高体）の指導員

千本桜千寿会　坂口　芳巳

千寿会教室は1991年4月に設立されました（前身は1984年千本桜自治会館で体操部として開設）。以後、33年間の長きにわたり、指導員の手で高齢者の健康づくりに大変貢献されて参りました。設立以前は先生探しに大変苦労されたそうですが、1991年に神高体独自の指導員養成教室が開設されて以来、順調に活動が続けられたということです。

私が千寿会教室に入会したのは2012年でした。内容はストレッチ体操、リズム体操、フォークダンスです。初めての経験で、簡単な体操でも思うように頭と体が動いてくれません。少し複雑な動きになるとなお更です。それでも練習の成果が現れると天にも昇る気持ちでした。

体育会主催の「体育祭」が近づくと練習に一層熱が入ります。覚えが遅い私には特に気を遣っていただき、困らせたこともありましたが、親切に指導してくれました。また、次々と新しい体操は紹介されるし、それに合わせた音楽も楽しみです。私はこの時間が楽しくて大好きです。素晴らしい指導者達のお陰だと思っています。

ある方の生前の話を思い出します「私の第2の人生は体操教室で支えられて歩んできたような気がします。お陰で87歳まで長生きさせていただき感謝しています」。この言葉はみんなの気持ちを代弁しているような気がします。

初代会長は、「受講者の皆さんは年齢制限がなく、体操経験があり、高齢者の健康づくりのため活躍するという大きな希望と社会的使命感を持った会員が率先して受講されるので立派な指導者が誕生する結果となった」と述べられています。

また、指導員育成のパイオニアである大和支部長は、「指導員のみなさんは元気です。それは体操薬を飲んでいるからです。体操は良薬です。笑顔で心がすっきりしていれば病気は寄り付きません。人生100年、元気100年」と述べられています。

指導員養成教室開設後30年以上が経過しました。心よりお祝いを申し上げます。優秀な指導員たちが体育会の発展に大いに貢献されて参りました。今年も体育祭が開催されます。素晴らしい演技を見るのが楽しみです。前述のように体操教室が大好きです。今後もお世話になると思います。よろしくお願いします。

ローカル私鉄を巡って

草柳寿草会　高橋　正広

20代の頃私は首都圏のローカル線に乗るのが好きでした。今では地方私鉄も車両が良くなりましたが、当時は各社とも個性的な古い車両が走っていました。昭和40年代半ばの関東鉄道を例にしますと、常総線（取手ー下館）・筑波線（土浦ー岩瀬）・竜ヶ崎線（佐貫ー竜ヶ崎）もう一つ茨城交通（勝田ー阿字ヶ浦）は記憶に残る路線でした。当時は窓口で硬券の乗車券を買って乗りました。開業当時の木造駅舎が残っていて小さな窓の出札窓口や木製の改札、手小荷物扱い窓口もありました。若い時は一人旅が好きでワクワクしながらの鉄道旅でした。コンビニなど無く、昼食に困ったことも。飲み物の自販機も無く夏の旅は困りました。それでも乗ったことの無い路線を一つ一つ踏破していくのは楽しみでした。勿論カメラ持参で車両や風景も撮りました。どんなローカル線にも車掌が乗務して旅情がありました。現代のローカル線はきれいな車両が走っていますが、ワンマン運転で自動放送、大きな駅で下車すると決まって駅前にはコンビニがあり、イトーヨーカドーがある。あまり地方に行った気がしないと思うのは私だけでしょうか。駅を降りると「日通」の倉庫があった当時。今でも脳裏にその風景は残っています。現在ローカル線は存続の危機にあります。風水害で線路が不通になりそのまま廃止という線区もあります。国の力でローカル線を守ってもらいたいものです。

忘れられない旅の思い出

粋生クラブ　宮崎　汎

午前9時の飛行機でデンマークの首都コペンハーゲンからフィンランドのヘルシンキへ向かう予定がひどい濃霧のため、全便飛行できず空港は大混雑である。

待つこと久しく午後3時過ぎ、唐突に搭乗する予定の便のチェックインを開始するとのアナウンスがあった。

勇躍手続きを済ませ座席に落ち着きほっとするが、さらに満席の機内で30分ほど待機した。座った席は前から5番目だが前の席は空席で誰もいない。しばらくすると厳めしい軍服姿の軍人等7～8名の一団がどやどやと乗り込んできた。同時に機はエプロンを離れ滑走し直ちに離陸した。

機内食が配られた。空港では混雑のため昼食どころでなく腹ペコで早速食事をとった。私の座席から前には1人の大柄な女性が座しているだけで彼女も食事をしている。通路を挟んで座している軍人たちはワインを飲みながら互いにひそひそ会話をしている。そうこうしているうちに夕暮れ迫るヘルシンキ空港に到着した。機が停止したので荷物を取ろうと立ち上がると大柄なフライトアテンダントが小走りにやってきてそっと肩を抑え、まだ座っていてくれと告げた。

目の前の座席の女性が立ち上がり帽子を直している、見詰める私と目が合うとにっこり笑ったので私も微笑み返した。最後に乗り込んできた一団がまず去って行った。機内は急にざわめき、にぎやかになった。

ふと機内の窓からみると、目の下に敷き詰められた赤い絨毯の上をTVのライトを浴びながら、彼の女性を先頭に一団が歩いていく。

フライトアテンダントが荷物をとってくれ、「お待たせしました」とにっこり微笑みかける。「今の方たちはVIPですか?」と尋ねた。彼女はびっくりして「ご存じないのですか?あの方はデンマークのマルグレーテ2世女王陛下です」と告げた。偶然乗り合わせ、同じ機内食を食べ、目が合ってほほえみながら去っていった方が女王陛下であったのだ。忘れることのできない旅の思い出である。

子どもの頃の思い出!!

第二喜楽会　佐々木弘子

小学5年生の時でした。授業の終わり帰りの支度をしていると、担任の先生から「弘子!!今日残りなさい」と言われ何かと思ったら「このあいだ描いた絵が良く出来ていたので、もう1枚描いてきなさい」とのことでした。友達と2人写生に出て、校庭のかたすみで日が暮れるのを忘れて一生懸命描きました。ある日突然先生に呼ばれ「あの絵は金賞を取った」と言われ耳をうたがいました。それからの私は、学校での生活ががらりと変わりました。どんどん手を上げて発表するし、人前で話をするのも苦になりませんでした。人が変わったように明るくなって友達ともどんどん交流して、みるみる成績が上がり、みんなびっくりしていました。その時は誰もが認める「弘子」になっていたのです。先生に一言ほめられ自分を認めてもらったことで1人の女の子がこれほどまで変われるとは誰も思いませんでした。そうなったら友達もたくさんできて毎日がとても楽しかったことを思い出します。

もう1つは高校生の頃のことです。運動会で「むかで競争」というのがあり、その選手に選ばれました。「別に足が速いわけでもないのに」みんなで「練習しよう」と話がきまり、学校の近所にある神社へ行って、竹でむかでを作り5人の足にしばりつけて社のまわりを何回も何回もころんでは笑い影を見ては笑いいっぱい笑ったことをおぼえています。毎日、日が暮れるまで無心で走っていました。きついからやめようと言う人は1人もいませんでした。そして当日です。笛が鳴ると一斉にとび出すのですが自分達がだんとつでした。もちろんテープを切って1番にゴールしました。

努力はむくわれるものと思いました。この達成感は何ものにも変えられないものでした。今思いかえしてもつ いこの間のことのように思います。あの頃は楽しかったなあ!!

文芸のひろば

俳句

南林間第一寿壮クラブ　泉　榮子
虚しさに心癒えずも春を待つ

高砂会　髙橋　賢司
掃く紅葉チヨッピリ残して置きにけり

若草クラブ　鵜澤　靖
昔見た蜻蛉の群れの懐しさ

若草クラブ　西村ふみ子
一間の窓より広がる秋景色

若草クラブ　吉田　祐三
畑仕事野菜も心も溶ける夏

若草クラブ　樋口　昌吉
台風禍ガラポン奄美球の中

桜友会　大内　勝子
ミニトマト一品料理華やかに

桜友会　高津　花枝
真夏日が暮れて今夜も熱帯夜

桜友会　吹上　禮子
菊一輪亡夫（つま）に供えるスーパームーン

桜友会　奥村　允子
担ぎ手の素肌を伝う玉の汗

桜友会　道明　忠子
待ちかねた秋の訪れ虫の声

桜友会　小嶋　勇夫
立秋とは思えぬほどの暑さかな

桜友会　中町　富子
余り苗根強く育ち穂が稔る

宿喜楽会　山梨　博文
風死して眠り貪る舫い舟

宿喜楽会　花田　恵子
患いて父母恋し我八十四才

札の辻クラブ　畠山千代子
絵にしたい旭日輝く赤レンガ

南林間第一寿壮クラブ　谷川　元彦
機微に触れ一期一会に感謝する

上和田明和会　木野芙美子
静けさの手向の花か白桔梗

第一つきみ野会　大森　利憲
初春や母校ランナー走り抜け

第一つきみ野会　加藤　滋
先祖へは感謝感謝と生身魂

せぴあの会　髙橋　克
舞う蛍かの「ひめゆり」の乙女かも

川柳

桜友会　道明　和典
朝夕のチャイム市歌とは知らぬ市民（たみ）

桜友会　甲斐　忠幸
正月やのらりくらりと三日過ぎ

桜友会　宮﨑　文夫
痩身を羨望視する肥満体

宿喜楽会　坂口　賢治
八十に成て気になるボケとがん

宿喜楽会　山梨　博文
クラブ背負い昔ＣＣ今ＧＧ

高砂会　髙橋　賢司
背凭れに並ぶ小さな野球帽

若草クラブ　森　美枝子
アレよアレそうそうアレよああアレか

若草クラブ　鵜澤　靖
誕生日プーチンと同じこりゃたまらん

南林間第一寿壮クラブ　折田　道夫
愚妻だが元気無邪気が取柄かな

千本桜千寿会　安部　典子
老いていく清く正しくそれなりに

せぴあの会　化石庵頓珍
九十では迷路だ我が家へ帰る道

私たちはゆめクラブ大和の活動を応援しています

善光明ジャンプ会　東山　和彦
バカ話し楽しみながら生きようヨ

善光明ジャンプ会　鍵山　寛
お互いにボケかトボケか気がつかず

短歌

桜友会　道明　和典
老人会皆薬剤師得意気に
カタカナ単語すらすら話す

桜友会　小嶋　勇夫
巣籠りをま近に熊は街へ出る
危険を犯し食べ物漁る

桜友会　熊橋　芳美
老い（お）一人秋の好日近場旅
最寄りのスーパーコンビニ歩く

桜友会　小高つや子
お早ようと一声かけて児等（こら）が行く
学級閉鎖解けて笑顔で

桜友会　甲斐　忠幸
Vの字を描いて飛ぶや雁の群れ
阪神優勝日本一へ

桜友会　宮﨑　文夫
笑顔良し酒も旨いぞ宿も良し
歳を忘れて夜の耽るまで

桜友会　田中　貞子
三年の出不精祟るシミとシワ
マスク外せぬ習慣病

桜友会　道明　忠子
連暑すぎ肌に涼しさ秋が来た
旅に出ようかグルメにしよか

札の辻クラブ　畠山千代子
アリガトウ亡夫（つま）の声に涙しぬ
幾年（いくとせ）過ぎてもうれし懐かし

宿喜楽会　山梨　博文
スーパーで今亡き娘に似た人に
心シクシク懐かしく

宿喜楽会　花田　恵子
しずむ陽は極まり焼けし鉄のごと
ジユツと鳴るか波間に落ちぬ

若草クラブ　鵜澤　靖
空晴れて飛行機雲の眞白（ましろ）きに
思わず胸を拡げたり

若草クラブ　和田サト子
赤き頬風に向かって走り行く
学童の声路地に響いて

善光明ジャンプ会　東山　和彦
愚息めに一晩五回起こされて
トイレトイレとせがまれる僕

第二喜楽会　瀬沼せつ子
優しさも心に残る微笑みに
よき孫等とひと時写す

編集後記

新しい年を迎えました。本年もよろしくお願いします。

84号は60周年記念の後半としてページ数を増やしてお届けします。

今年も、大和市シニアクラブ連合会の活動の一端を会員の皆様にわかりやすくお伝えできるよう努力して参ります。

総務部長　石川　創一

原稿募集

次号「ゆめクラブ大和」85号に原稿をお寄せください。

★クラブ活動記、随想、旅の思い出、健康・介護に関することなど。俳句、短歌、川柳は一人各々一句または一首。

★文字数は800字（原稿用紙2枚）以内とし、写真を添付しても結構です。

★必ず、クラブ名、ご氏名を記載願います。

〈次号発行〉
2024年7月25日㈭

〈締切日〉
2024年5月10日㈮

〈応募方法〉
必ず各単位クラブの会長を通して市シニア連事務局へ提出願います。

私たちはゆめクラブ大和の活動を応援しています

思い出アルバム

令和5年度　秋の一泊親睦旅行

ご協賛いただいた皆様への御礼

このたびは、広報誌に広告のご協賛をいただき、誠にありがとうございます。本誌は誌面を通じて会員の交流･情報交換はもとより、地域の皆様にシニアクラブの活動をご理解いただき、一層の交流の輪を広げるため発行するものでございます。以上の趣旨をご理解いただき、引き続き広告掲載のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【大和市シニアクラブ連合会】

私たちはゆめクラブ大和の活動を応援しています